

「流水不争先」
りゆうすいさきをあらそわず

◆ 人類の歴史において、争いはつきものだ。科学技術がこれほどまでに発展した現代でも、昔と変わらず同じ過ちを繰り返している。

◇ もちろん、誰しも好んで争いを求めているわけではない。家庭、学校、会社、地域、国家。規模の大小や、環境の違いはあるにせよ、争いの根源や本質といえるものは、いつも同じである。怒り、憎しみ、強欲ごうよく、傲慢ごうまん、恐れ……。悲しいかな、それらはあらがえない人間の性さがともいえるものだ。

◆ そんなとき心に浮かんでくるのが、「流水不争先」という言葉である。流れる水は先を争わない、という中国の教えだ。川や水の性質を、人間の心に例えているのだ。

高きから低きへと下る、水。

どんな器にも逆らわず形を変える、水。

泥や汚れを包み込み、洗い流す、水。

◇ 争いの絶えない複雑な世の中だからこそ、「謙虚さ・柔軟さ・清らかさ」といった水の心が求められるのではないだろうか。

—— 天理のことば ——

「やさしい心になりなされや。」

人を救けなされや。

癖、性分しょうぶんを取りなされや。」

（天理教教祖伝逸話篇より）

〔解説〕

悪い癖を直すのは難しいものだが、優しい心で人のたすかりを一心に願う中に、心の癖、性分が取れてくる。そして、誰に何を言われても腹が立つことのない、低い心になっていく。

陽気ぐらしの天理教

